

| | |
|-------------------------|--|
| 研究課題名 | 非小細胞肺癌に対する免疫療法における耐性機序:PAI-1 の関与の検討 |
| 研究期間 | 実施許可日 ~ 2026年 3月 31日 |
| 研究の対象 | 2021年4月~2024年4月の間に術前補助療法を受けずに、当院で根治的外科手術を受けた肺癌患者さん。もしくは術前補助療法を受けた後に、当院で根治的外科手術を受けた肺癌患者さん。 |
| 研究の目的・方法 | <p>【目的】近年、進行肺癌に対して免疫チェックポイント阻害剤が使用され、以前より治療成績も向上しましたが、それでも治癒に至る患者さんはほぼいないのが現状です。Plasminogen activator inhibitor-1 (PAI-1) は、主に我々の体内で過剰な出血を抑制する機能を持つタンパクですが、EGFR 遺伝子変異陽性肺癌に関する研究では、PAI-1 は分子標的治療薬に対する初期耐性に関与し、長期生存を目指すための治療標的となりうるということが報告されています。これらの研究成果を踏まえて、本研究では、進行肺癌において PAI-1 が免疫チェックポイント阻害剤の1つである抗 PD-1 抗体に対する耐性に関与するかどうかを明らかにするため、この研究を計画しました。</p> <p>【方法】本研究は、診療録（カルテ）から得られた臨床データと手術で採取した病理検体を利用して研究を行います。抗 PD-1 抗体投与の有無によって、肺癌組織内の PAI-1 発現や腫瘍免疫微小環境に差が出るかを免疫染色によって検討します。</p> |
| 研究に用いる試料・情報の種類 | <p>情報：年齢、性別、病歴、血液検査結果、画像検査結果等</p> <p>試料：気管支鏡検査や手術によって採取された肺癌組織</p> |
| 外部への試料・情報の提供 | ありません。 |
| 利用または提供を開始する予定日 | 本学における実施許可日 |
| 個人情報の保護 | 試料・情報は解析する前に、氏名・生年月日・住所等の特定の個人を識別できる記述を削除し代わりに研究用の番号を付け、どなたのものか分からないようにします。 |
| 研究組織 | <p>本学の研究責任者</p> <p>広島大学病院呼吸器内科 診療講師 益田 武</p> |
| その他 | 開示すべき利益相反はありません。 |
| 研究への利用を辞退する場合の連絡先・お問合せ先 | 研究に試料・情報が用いられることについて、研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合は、研究対象としませんので下記の連絡先までお申し出ください。なお、お申し出による不利益が生じることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた |

情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。

また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。

広島大学病院 呼吸器内科

担当者：隅井 允彦、益田 武

〒734-8551 広島県広島市南区霞 1-2-3

電話番号：082-257-5196